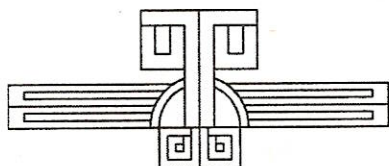


光記念館 年 報

— 創刊号 —

2000. 9



光記念館

-Iikaru Memorial Museum

目 次

ご挨拶	3
I、施設概要	4
II、平成11年度事業概要	5
A. 展示	5
[1] 常設展	5
[2] 特別展	14
B. 教育普及活動	17
[1] 講座	17
[2] ボランティア活動	19
[3] 展示解説	20
[4] 広報・宣伝活動	21
III、平成12年度事業計画	23
IV、開館日数・入館者状況	24
V、組織・職員	25
1 組織表	25
2 職員名簿	25

ご挨拶

光記念館開設の構想は、岡田光玉師の「地球は元一つ、世界は元一つ、人類は元一つ、万教の元又一つ」の理念に基づき、前人未到の新しい総合文明原理を打ち樹て、地上に世界人類の悠久平和を確立せんとする精神が根幹にある。

当館では、これまで蒐集した博物資料や美術品を公開するとともに、地域文化の発展・向上、国際交流の推進を目的としている。

展示されている美術品は、世界七大文明と日本の地で発掘された化石や土器等の遺物を中心にして、わが国の独特の伝統美を有する日本画、書等の線の美交えた作品を広く一般に公開するものである。

特に古代遺物は、各文明の足跡を歴史的に紹介するものであるが、それはただ単に古代遺物の認識にとどまらず、次の文明（自然と人との共生社会）に向かって重要な示唆を与えるものであると確信している。

平成12年 3 月31日

光記念館

館長 岡崎 功

I、施設概要

《建築概要》

建築地	岐阜県高山市中山町175
地区・地域	第2種住居地域、第1種住居地域 中山第一地区 計画内教育文化地区
工 期	着工：平成5年6月23日 竣工：平成10年2月27日 開館：平成11年4月8日
敷地面積	75,753.75m ² (22,915坪)
建築面積	14,097.00m ² (4,264坪)
建ぺい率	19.78% ≤ 48.17% (地区計画)
延床面積	32,668.81m ² (9,882坪)
容 積 率	45.84% ≤ 76.34% (地区計画)

《施設の規模》

駐車台数	来館者用	乗用車	105台
		バス	25台
	職員用	乗用車	66台

美術館棟

見学ゾーン面積	1階	3,750.62m ²	(1,135坪)
	地下1階	2,812.12m ²	(851坪)
	地下2階	7,013.97m ²	(2,122坪)

合 計 13,576.71m² (4,107坪)

能舞台	1舞台
映像展示室	108席
収蔵庫面積	1,534.62m ² (464坪)
図書室	30席
レストラン「ピラコチャ」	104席
和風レストラン「日玉の里」	90席 (団体予約専用)
立札席	32席

美術館棟の外形	101m×86m
ピラミッドの高さ (中央床面より)	20.7m
ピラミッドホールの天井高	21.7m
(地下2階フロアより)	
可変床面積	1,353m ² (409坪)

Ⅱ、平成11年度事業概要

A. 展示

[1] 常設展

(1). 顕彰記念室（1階）

イ. 展示目的

「世界の悠久平和を確立する」という壮大な構想を発表された岡田光玉師の精神を根幹とし、師の業績を顕彰して広く世界へ知らせることを目的としている。師の壮絶な人生の足跡や当時の社会情勢、人としての使命、道德観、新たな歴史観等を伝える展示を行っている。

また、師の遺品・業績記録等を保存・保管し、後世に伝承する役割も担っている。

ロ. 展示内容

〈第一展示室〉

岡田光玉師の生涯を紹介している。

明治34年2月27日に誕生し、幼少の頃、父母からの厳しい薫陶を受けて道德心を養った。青年時代は軍人としてエリートの道を歩む。

その後、馬からの転倒事故によって重傷を負い、3年の命と宣告されてからは経済界に身を投じて成功を収める。

しかし終戦間もない昭和20年6月、戦災によって全てを失うが、貧のどん底から立ち上がり、神仏への帰依と感謝のうちに生き、「3年の命」と宣告された身が5年に伸びていたことに気づく。

昭和34年1月借財返済が完了した。その年2月27日最初の神示を受け、余生を世の為、人の為に捧げようと決意し、活動を始められる。

昭和49年6月23日に73歳の生涯を終えられた。

ここでは師の生涯を絵画と年表で紹介し、人生の転機となった神示に関する実物資料等も展示している。

* 展示手法

○神示に関する実物資料…玉石・天杖。

○崇教真光のシンボル…旗。

○師の生涯の紹介…絵画・年表・グラフィック。

〈第二展示室〉

立教後の岡田光玉師のご遺品や再現家屋を展示している。

師が生涯を通して実践された心掛けや周囲の人々に対する愛情を資料か

ら窺うことができる。

＊展示手法

- 物を尊ぶ…廃品利用の日用品・使い込まれた衣服。
- 治に居て乱を忘れず…非常用品・指輪。
- ご愛情…地方の人に宛てた手紙・贈り物。

〈第三展示室〉

師を偲ぶため神秘的な空間をイメージした展示室を作り、日展審査員も務められた富永直樹先生の美術作品である師の立像を設置した。

岡田光玉師の顕彰を目的とする展示の中でイメージ的な展示を試みている。

＊展示手法

- 美術作品…ブロンズ製のご立像。
- 実物資料…教本・勲章。

〈第四展示室〉

岡田光玉師の理念「地球は元一つ、世界は元一つ、人類は元一つ、万教の元又一つ」を地理・歴史的な角度から検討し、疑問を投げかける展示を試みた。

日本と世界の遺跡・紋様の類似点等をパネルや映像等で紹介し、日本と世界のまだ解明されていない遺跡や遺物も検索形式で紹介している。

＊展示手法

- 実物資料、グラフィック、映像、検索映像。

〈映像小ホール〉

120インチモニターを設置し、椅子は108席設けられている。通常は、岡田光玉師の生涯をアニメーション化したものを上映している。

また、季節ごとに監修の先生方並びに当館学芸員による特別講座を開催し、展示の補足や学習の補助を行なっている。

(2)．飛騨展示室（地下1階）

イ．展示目的

現代の人類社会を支える自然が現在の姿になるまで、人類を含む全ての生命が果たしてきた役割と環境の変化を紹介する。

いつの時代においても1つ1つの生命には役割があり、一切無駄無く配

置されている。生命と環境の長い歴史と積み重ねを知ることにより、自然をかけがえのないものとして再認識し、慈しむ心を育てる。

ロ．展示内容

飛騨は古生代の福地累層、中生代の手取層群、新生代の火砕流堆積層等各年代の地層や岩石が露出していることで有名である。

当館の展示は飛騨の化石と考古資料を中心に古生代から現代までの自然史と生命の関わりを展示している。

飛騨の実物資料を通して、地球の自然界における普遍真理を捉え、一切無駄無く培われた生き物の役割と命の尊さ、環境との関わり等を紹介している。

展示には命と心の大切さを伝えられるよう、復元模型やジオラマに力を入れた。特に植物ジオラマは葉脈に至るまで、化石を元に忠実に復元している。

〈輝く生命の星〉

導入部に宇宙から見た地球を表現し、自然の美しさと思議さを提示しながら視点を飛騨に絞っていく。

*展示手法

- 地球模型、100インチモニター映像。

〈古生代〉

飛騨にある古生代の地層から、サンゴをはじめとする海の生き物の化石が数多く発見されている。

これらの原始生物は何億年もかけて大量の二酸化炭素を石灰岩に変えて酸素を放出し、生命の星とよばれる地球の基礎となる、オゾン層や大気等の環境を作ったといわれている。

また、現在の珊瑚礁のように、古生代のサンゴと藻類等も理想的な共生関係を保って繁栄を遂げたことを紹介している。

*展示手法

- 実物資料…海生動物化石・岩石。
- 復元模型…実物資料を用いて、福地累層・デボン紀岩盤の一部を原寸大に復元した。
- ジオラマ…デボン紀・石炭紀・二畳紀の海の様子を忠実に復元した。
- ミラービジョン、映像。

〈中生代〉

飛騨地域にまたがる中生代の地層「手取層群」は恐竜や植物化石を多く内包することで知られている。海から陸、湖、川、空へと生活環境を広げ、動物と植物が共生しながら繁栄を遂げ、現在の生活環境を作ったことを伝える。

*展示手法

- 実物資料…陸上植物化石・海生動物化石等。
- ジオラマ…手取型植物群を原寸大で葉脈に至るまで、精巧に復元した。
- 恐竜模型…手取層群から発見されたスギヤマリュウ・カガリュウの原寸大復元模型。

〈新生代〉

飛騨の山々は、新生代の活発な火山活動とプレートの活動によって形成されたといわれている。大地の巨大なエネルギーを地形の痕跡等から伝える。

また、新生代は人々が活動を始めた時代でもある。自然に適応する為に道具を作り、自然素材の特性を活かして繁栄を遂げた人類と自然との共生を紹介する。

*展示手法

- 実物資料…石器、土器、岩石。
- 映像模型…噴火と再生の様子を紹介。

〈大自然の恵み〉

視点を飛騨から世界に広げ、地球的規模で繰り広げられた環境の変遷やいのちの果たした役割を振り返り、自然界の偉大さと恩恵を再認識する。

日本は亜熱帯で化石として残りにくい為、ボリビアの三葉虫化石を歴史の証言者として展示している。

*展示手法

- 実物資料…ボリビアの三葉虫化石。
- 映像…60インチモニターで自然界の恩恵を紹介。

〈学習コーナー〉

展示を振り返り、楽しみながら復習を促す場とする。

*学習手法

- Q&Aコーナー…展示内容を題材にした、3択5問のクイズを

タッチパネルのモニターで行い、展示の復習を促している。

○体験学習室…多目的スペース。実物資料に触れる、ミニ企画展等を計画中。

(3). 人類史展示室（地下1階）

イ. 展示目的

展示は岡田光玉師の理念「地球は元一つ、世界は元一つ、人類は元一つ、万教の元又一つ」を軸として、人類が共通して持つ普遍の心、『崇める心』をテーマにした。

古来より人類は自然を畏れ尊び、豊かな文化を育んで現代にまで残る遺産を築いた。こうした古代文明の所産は「崇める心」の象徴であり、現代文明においても人々の心のよりどころとなっている。

又、先人の努力があって我々も今日の生活を営めるのであり、何千年も前から現代にまで通じる文化の共通性・独自性を知ることは今後の文化・文明を考える上でも重要である。

ダイナミックな造形を生んだ世界各地の文化遺産の展示を通して、21世紀を迎える現代人の視野を広げ、文明を育む原動力となった人類の“心”を問う場を提供している。

ロ. 展示内容

人類史展示室では、世界各地の考古資料を各文明・文化ごとにまとめた展示を行っている。旧石器時代から世界の7大文明と日本の縄文時代について、その全体像と精神性を実物資料、模型、解説パネル、映像、ミラービジョン等によって紹介している。

『崇める心』を展示テーマに人類の心を探り、その帰結としての諸文明を提示している。

〈旧石器時代〉

約400万年以上前から世界各地に広がった人類は、厳しい自然環境に適応しつつ豊かな文化を育んでいった。火の使用、石器の加工技術、豊穡や秩序を祈る洞窟壁画等を通して、旧石器時代の人々の『崇める心』を中心に紹介する。

*展示手法

- 実物資料…旧石器。
- 縮小模型…旧石器時代の洞窟壁画。

〈世界の古代文明〉

約1万年前頃から、世界各地に文明・文化が興っていった。古代文明展示の導入として大型の地図・年表を配置し、7つの文明と日本の縄文の地理的・時代的な位置関係を一覧できるように工夫した。

各文明に見られる環境や遺跡・遺物を一堂に見ることで、それぞれの相違点や普遍性を垣間見ることができる。

*展示手法

- 世界地図に8つの21インチモニターを配置し、各文明の気候風土・代表的な遺跡・遺物を映像で一覧できる。

〈古代文明〉

紀元前3000年頃より栄えた世界的にもよく知られる7つの文明を展示コーナーごとに分けて展示している。

世界各地の古代文明を社会のあり方や建築、実物資料の造形や紋様、等多方面から見つめ、又、比較することでそれぞれの文明を支えた人々の宗教観・死生観を探り、人類の未来を模索する。

*展示コーナー

- ①メソポタミア文明
- ②ギリシア・地中海文明
- ③エジプト文明
- ④インダス文明
- ⑤中国文明
- ⑥メソアメリカ文明
- ⑦アンデス文明

*展示手法

- 実物資料…保存状態の良好な副葬品の展示。特に中・南米は当時の人々の精神性を伝える土器や、布製品等の一級資料で充実している。
- グラフィック…大型写真パネル、地図・年表、解説文をそれぞれ統一した手法で配置した。
- 模型資料…当時の人々の精神性を伝える神殿縮小模型・太陽の船縮小模型・遺跡の復元模型・巨木柱等を設置してい

る。

又、アンデス文明『太陽の門』の精巧な原寸大の模型は、現地の天野博物館にご協力頂いた資料を元に作成した。

〈縄文〉

縄文時代は近年の発掘・調査・研究により、その生活水準の豊かさが見直され、現在でも新たな発見が相次いでいる。

自然と共に生き、1万年以上もの間続いた縄文時代の全体像を提示し、同時期に栄えた世界の文明と共に展示する。

*展示手法

- 実物資料…土偶、土器、石製品。
- レプリカ…木製品、土器。

〈学習コーナー〉

展示を振り返り、楽しみながら復習を促す場とする。

*学習手法

- 古代文字スタンプ…エジプトのヒエログリフとマヤ文字のスタンプを用意し、名前や来館日等を古代の絵文字で押して、持ち帰れるようにしている。
- 土器の立体パズル…縄文の火炎土器とアンデスの鐙形土器を電磁石で組み立てられるようにし、資料復元のミニ体験ができる。
- Q&Aコーナー…展示内容を題材にした3択5問のクイズをタッチパネルモニターで行い、展示の復習を促している。

美術展示室

イ. 展示目的

岡田光玉師より「人間の生活は1日1日、ひと時ひと時が生きた芸術、いわゆる美の表現でなくてはならない」「神様のご生活遊化の世界はまさに芸術そのものであり、楽しみ一杯の世界である」と示されている。

芸術は古来より人の精神性に深く関わり、洗練されてきた。万人に通ずる清明正直な美の世界から、高い感性を培うことを目的としている。

ロ．展示内容

当館では“清明正直”感の漂う日本画や書等の資料を収集している。第1、第2、第3展示室では、所蔵する日本画・書の常設展示を行い、季節感を考慮して年に3～4回展示替えを行っている。

また、第4展示室では年に2～3回企画展を常時開催している。

〈第1展示室〉

当館所蔵の近・現代の日本画を中心とした常設展示。

200点を越す所蔵品中より、常時20～30点を展示し、季節に合わせて年に3～4回の展示替えを行っている。

*所蔵作家

横山大観、前田青邨、東山魁夷、棟方志功、上村松園、
鏑木清方、伊東深水、他

〈第2展示室〉

当館所蔵の近・現代の大型屏風を中心に展示を行っている。季節感を考慮し、年3～4回展示替えを行っている。

*展示資料

横山大観…「不二霊峰」
加山又造…「夜桜」「龍図」
今井俊満…「夏草図」「夏冬図」
芹沢桂介…型絵染め「いろは」「春夏秋冬」、他

〈能舞台〉

能は鎌倉時代に神社の境内を舞台に始まり、約700年もの間、洗練され続けてきた日本の伝統芸能である。

能の演目内容や装束、能舞台の解説を行い、目に見えない幽玄の世界をも表現する能の洗練された芸術性を伝える。

*展示

- 可動式、総檜造りの能舞台。
- 能装束一式…『羽衣』、『猩々』等。
- 60インチモニター映像…『高砂』の舞囃子。

〈第3展示室〉

当館では、歴史上の著名人（詩人・歌人等）や、近・現代の書家の作品等約200点の書を所蔵しており、その内約20点を常設展示している。

尚、企画展のスペースが足りない場合は第3展示室も企画展示室として流用し、第1・第2展示室にて書を展示することもある。

＊所蔵作家

手島右卿…「崩壊」

貫名崧翁、市川米庵、良寛和尚、賀茂真淵、勝海舟、
若山牧水、他

〈第4展示室〉

芸術世界の先駆者的役割を果たした人物の作品展を主に取り扱っている。
館所蔵資料の他に他館から資料を借用し、充実した内容の企画展が開催された。

＊企画展内容

H11. 4. 8～H11. 6. 27…～近代芸術のあけぼの～
ロダン／ブールデル展

H11. 7. 6～H11. 12. 26…～生活の中の美～
北大路魯山人展

H12. 1. 4～H12. 6. 25…～富嶽三十六景展～
北斎芸術への誘い

[2]特別展

企画展示室

「近現代彫刻のあけぼの ロダン／ブールデル展」

会期：平成11年4月8日～6月25日

展示点数24点

《展示目的》

今回の特別企画展は、オープン記念の一つということもあり、近代彫刻の巨匠・ロダンとその弟子ブールデル展を開催した。

当館に開館当初彫刻作品が所蔵されていなかったことと、ロダンが近代彫刻に一筋の光を照らす存在であったという点が、光記念館の幕開けに相応しいと企画されたものである。

《展示内容》

人間のもつ情念、情熱の表現を様々なモチーフによって追求しつづけたロダンは、日本で最も有名な彫刻家といえる。

代表作「考える人」は、完成を見るに至らなかった壮大な終世の大作（地獄の門）の中にあり、後に独立した彫刻として完成した。

これらの作品から、ロダンの力強い生命表現と大胆な造形性、そして内に秘められている精神性を感じ取って頂きたいというのが狙いであった。

又、ロダンの男性的でモニュメンタルな部分を継承した弟子ブールデルの作品、「アルゼンチン建国の英雄アルヴェアル将軍」を題材にした四部作「力」「自由」「勝利」「雄弁」は企画展後当館のコレクションに加えられた。この作品は、垂直に立つ柱のようにガッチリとしており、控えめな動きの中に秘めたる躍動を表現している。又、大きく単純な面で捉えられた顔の表情は、普遍性を指向している。

更に、ブールデルが一生涯を通じて数多く制作した「ベートーヴェン」の肖像より一点を展示した。ベートーヴェンの音楽がブールデルの彫刻の表情に生氣を与え、眼差しを導き、髪に秩序を与えたといわれている。

又、ロダンの「考える人」に感銘して絵画の道から彫刻に転向し、日本に近代彫刻の本質を伝えた荻原守衛の作品も併せて展示した。

「生活の中の美 北大路魯山人展」

会期：平成11年7月6日～12月25日

展示点数150点

《展示目的》

京都現代美術館・何必館等のご協力を頂き、「生活の中の美 北大路魯山人」展を開催することが出来た。

魯山人の芸術は、前半生は主に書と篆刻を、又後半生はその質と量において主に料亭経営に関係ある陶磁器類の制作を行なったといわれている。

今回の企画展は、陶器を中心に篆刻、書を始め一部絵画の展示を行ない、集大成で魯山人芸術を紹介するものとした。

魯山人は「この世の中を少しずつでも美しくしていきたい。私の仕事は、そのささやかな表われである。」と考え、生涯生活の中における美「雅美生活」を追求した。

自ら窯をもち「織部」「備前」「志野」「九谷」「唐津」「伊賀」「信楽」や中国、朝鮮等の焼物から伝統的な様式を学んだのみならず、漆芸をも学び、その上で独自の美を完成させた。こうした魯山人の“飽くなき探求心”と“融合された美”を伝えることを狙いとした。

岐阜県は、美濃焼きで知られるように焼物の産地として有名であることから、大変興味を持って訪れる来館者が多かった。

《展示内容》

魯山人の数多い作品の中で「つばき鉢」は、大きさや使用されている色調等が自由でとらわれがなく、しかも斬新で、魯山人の人間性を簡潔に表わしている。そこでこれを中心に展示を行ない、その他にも「織部の木の葉皿」「色絵双魚文平鉢」「赤玉」等の焼物、又、漆器、書「雪月花」、篆刻も併せて展示した。

当初は、企画展示室一室のみで開催する予定だったが、より多くの作品を観賞できるように2室使用し、充実を図った。

魯山人の陶器は、全体的に単体で見ると料理をのせた方が器として輝きだし、芸術品としての価値が上がるといわれているが、その点をビデオによって紹介し、展示の一環とした。

「浮世絵葛飾北斎展 ～北斎芸術への誘い～」

会期：平成12年1月4日～6月25日

作品点数49点

《展示目的》

昨年（1999年）は北斎没後150年にあたる年であったため、世界に誇る日本の偉大な芸術家の魂に触れて頂きたいとの思いから、北斎の企画展示を開催するに至った。

当館では、浮世絵「富嶽三十六景」（裏富士10枚を併せた46枚）を全て所蔵していることから、これらを一堂に展示することを狙いとした。

《展示内容》

最高傑作といわれる「凱風快晴」俗にいう「赤富士」をはじめ、フランスの音楽家ドビュッシーを刺激して交響詩「海」を作曲（詩）させたといわれる「神奈川沖浪裏」、そして奇抜な構図で知られる「尾州不二見原」等教科書でも馴染みのある浮世絵を紹介した。

北斎は、幾何学的形態を対比・反復させることにより、奇抜な構図を作り上げている。浮世絵の中に盛り込まれている幾何学的形態の数々を探しながら観賞することをお勧めした。

又、浮世絵と併せて北斎の肉筆画「風景四季図（秋）」の展示も行なった。肉筆画によって表現されている繊細で柔らかい色彩感と技術の高さ、肉筆画の重みを併せて堪能して頂けるよう企画した。

さらには、同じ浮世絵師として有名な歌川広重の「東海道五十三次」から、同じ題材（土地）を描いている作品二点も抜粋し、比較展示を行い、構図や表現方法等の違いを対比して頂くことを狙いとした。

B. 教育普及活動

[1] 講座

平成11年度は、夏季に講演会を3回開催した。

夏季特別講座1

開館第1回目の特別講座として、東京大学名誉教授の濱田隆士先生をお招きし、下記の通り実施した。市の学校行事と重なったため子供の数はいなかったが、難しい内容を楽しく語る話し振りに大人の方が熱心に聞き入っていた。

《開催内容》

日 時：平成11年8月8日（日）13：30～15：30

講 師：濱田隆士 東京大学名誉教授

主 題：『恐竜博士が飛騨を語る』

場 所：当館1階小ホール

参加人数：97人

講座概要：

東京大学名誉教授であり、生命の星・地球博物館の館長でもいらっしゃる濱田隆士先生をお招きし、地域に対する知識意欲の高い地元の方を対象にして、飛騨の自然や地中に残された太古の世界へのロマンを、体験を交えながら語って頂いた。

日本の中でダイナミックな火山も多いこの飛騨地方の歴史を眺めるということは、まさに地球の活気あふれる生きている姿を見ることになる。また、各年代の地層が露出している飛騨は日本列島の歴史を凝縮しているといえる等、飛騨の地質を地球規模の興味に広げる内容だった。また、先生は小さい頃、となりの墓石屋さんの石ころに興味を持ったことから、鉱物、化石、サンゴ、地球とどんどん研究が広がっていったという体験談を通して、将来性に対する夢と希望を膨らませてくれる内容だった。

次に、ここ5～6年のスクラップ記事を使って、飛騨とその近辺からぞくぞくと発見された化石の内容を、それらがどのように地球史上で重要性のあることなのかという関連性を付け加えて、わかりやすく解説された。

最後に聴講者からの質問を受け付けた。化石のみならず、岩絵の具の材料と色との関係や、玉石の学術的見解等、多岐に渡る質問に的確にお答え頂き、好評のうちに終了となった。

夏季特別講座 2

第2回目の特別講座として、三内丸山遺跡対策室主幹岡田康博先生をお招きして下記の通り実施した。縄文時代に興味のある地元の方が多く参加され、質疑応答では具体的な質問が多く、質の高いものとなった。

《開催内容》

日 時：平成11年8月22日（日）13：30～15：30

講師：岡田康博 三内丸山遺跡対策室主幹

主 題：『甦る縄文世界の秘密』

場 所：当館1階小ホール

参加人数：108名

講座概要：

縄文時代は近年の発掘・調査・研究により、新しい縄文観が定着しつつある。

その縄文観を覆すきっかけとなった三内丸山遺跡の解説を中心に縄文の全体像と調査の様子を一般のなじみのない人にも分かりやすく紹介した。

講座では参加者全員に三内丸山遺跡の案内パンフレットを渡して、スライドを映しながら説明した。建物、道路、墓の配置等縄文社会における都市計画が浮き彫りとなった。また、縄文研究の始まりや海外への広がり等多岐に渡る内容の講話で縄文時代について詳しく知らない人もとても分かりやすいと好評を得た。

夏季特別講座 3

第3回目の特別講座として、美術に関する講座を下記通り実施した。

《開催内容》

日 時：平成11年9月19日（日）13：30～14：30

主 題：『美術講座Ⅰ』

場 所：当館1階小ホール

講師：館学芸員 吉井隆雄

参加人数：108名

講座内容：

講演会はOHPを用い、当館所蔵の主な日本画・屏風の作家や作品

1つ1つについて解説するものだった。またその時の企画展に合わせ、北大路魯山人の作品についても詳しい説明を行なった。

参加者から、「美術講座の第2回、第3回目はいつ行なわれるのですか。」との質問を頂くほど好評だった。

今後は、当館所蔵資料に関する調査・研究をすすめると共に、講座の内容を充実させ、更に質の高い講演会を行なえるよう努力していきたい。

[2] ボランティア活動

当館では、開館前にボランティア養成講座を平成10年10月～平成11年2月にかけて4回開催した（対象は陽光子友乃会会員より募集）。

来館者に接することを想定し、一般教養、礼節・マナーを重視し、明るく、礼儀正しく、笑顔がさわやかな、誰にでも親切なボランティアとして活動して頂けるよう養成に努めた。

開館後は、北は北海道から南は九州まで、全国から約50名のボランティア（19歳～75歳までと幅広い年齢層の方）に活動して頂いている。

期 間	内 容	備 考
平成10年		
10月24、25日	オリエンテーション 光記念館の意義 ボランティアの意義	講義
平成10年		
11月28、29日	礼節・マナーについて	講義・実技
平成10年		
12月12、13日	礼節・マナーについて	講義・実技
平成11年		
2月13、14日	総合実習 館内構造説明、清掃等	実技

[3] 展示解説

当館は、ピラミッドの外観に内部構造は地上1階地下3階建てという特殊な構造をしており、内部は顕彰記念室、自然史展示室、歴史展示室、美術展示室という4つの異なる分野を扱った総合博物館であるため、初めて訪れた来館者は館内で迷うことも少なくない。

そこで来館者の希望と時間的制約に応じて、下記の3通りの展示解説員による解説業務を実施した。

イ. 展示室解説

顕彰記念室、飛騨展示室、人類史展示室、美術展示室の各展示室で主な展示物の紹介や展示ストーリーの解説を実施した。展示室に常駐している学芸（解説）員が、来館者の希望や理解度に応じて解説を行なう。時間は来館者の希望に合わせることを原則としている。人と人とのふれあいを重視しながら、興味のうすい方にもわかりやすい解説を試みている。

ロ. 館内全体解説

館全体を一通り案内しながら、各展示の解説を実施した。個々の展示物の解説よりも、館の概要や展示構成等に重点を置いた解説で、一人の学芸（解説）員が最後まで案内するものである。団体や予約されていた方を優先しているが、当日解説を申し出た個人来館者にもできるだけ対応している。所要時間は来館者の希望に合わせることが原則で、特に制約がない場合は約1時間30分程度を目安としている。

ハ. 特別展解説

企画展開催期間中、企画展示室に学芸（解説）員が常駐し、展示室内で解説希望の有無を確認しながら随時解説を行なった。所要時間は企画展の内容によって異なるが、約15～20分くらいを目安としている。企画展の場合はリピーターも多く、目の肥えた来館者に対しては専門の学芸員が直接詳細解説や質疑応答を行なうこともある。

[4] 広報・宣伝活動

イ. 刊行物

当館では、開館記念並びに各企画展毎に下記の刊行物を刊行した。

(開館記念)

B 0 判開館記念ポスター

B 3 判開館記念ポスター

(特別展)

「生活の中の美 北大路魯山人展」

B 0 判「北大路魯山人」展ポスター

B 3 判「北大路魯山人」展ポスター

A 4 判「北大路魯山人」展ポスター

A 4 判「北大路魯山人」展図録

「北斎芸術への誘い 浮世絵葛飾北斎」

B 3 判「北斎芸術への誘い」展ポスター

B 4 判「北斎芸術への誘い」展チラシ

「その他案内紹介物」

A 4 判光記念館図録

B 5 判光記念館案内パンフレット

光記念館案内和文リーフレット

光記念館案内英文リーフレット

光記念館案内英文地図

ロ. 報道関係

報道関係者内覧会の開催を下記の通り開催した。

(第1回)

開催日：平成11年4月5日

対象者：岐阜県を中心とした新聞、テレビ、ラジオ、雑誌等のマスコミ
関係者

内 容：開館に際しての当館の概要等の説明と館内見学

(第2回)

開催日：平成12年1月18日

対象者：岐阜県を中心とした新聞、テレビ、ラジオ、雑誌等のマスコミ
関係者

内 容：特別展「浮世絵葛飾北斎展 ～北斎芸術への誘い～」について
の展示概要の説明並びに展示替えをした日本画・書等美術展示
室について主に見学をしながら説明を行なった。
その他、報道関係各社へ事前に情報提供できるよう努めた。

ハ. 宣伝活動

開館時並びに各特別展開催にあたって、高山市民、又、飛騨地域岐阜
県内へと広く宣伝活動を行なった。市内の各商店を中心にポスター掲示
の働き掛け、チラシ等の配布を行なった。

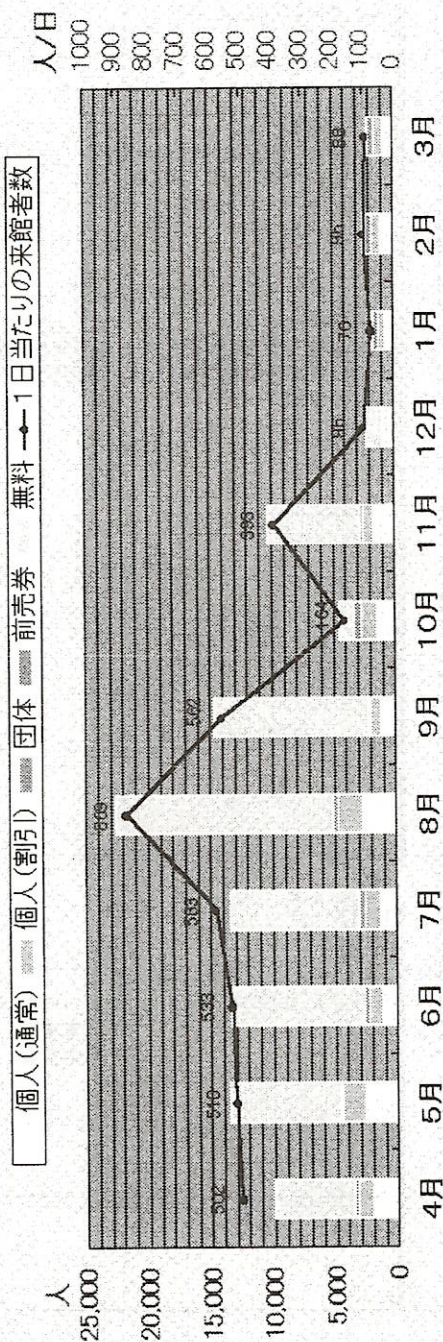
Ⅲ、平成12年度事業計画

月	企画展	内覧会	設備保守・点検	備考
4	1/4・ 葛飾北斎展 ～北斎芸術への誘い～			葛飾北斎展 第4展示室
5				
6	6/25・		6/26・	
7	7/4・ 池田満寿夫の芸術世界展 ～20世紀を駆け抜けた 国際的アーティスト～	7/4 池田満寿夫展 内覧会	7/3・展示替え 設備保守点検	池田満寿夫展 第3・4展示室
8				
9				
10				
11				
12	12/3 12/12・ 写真展 ロベール・ドアノー（仏）		12/25・	
1		1/16 写真展 内覧会	展示替え 1/15・設備保守点検 消防点検	写真展 第4展示室
2				
3	6/25・			

IV、開館日数・入館者状況

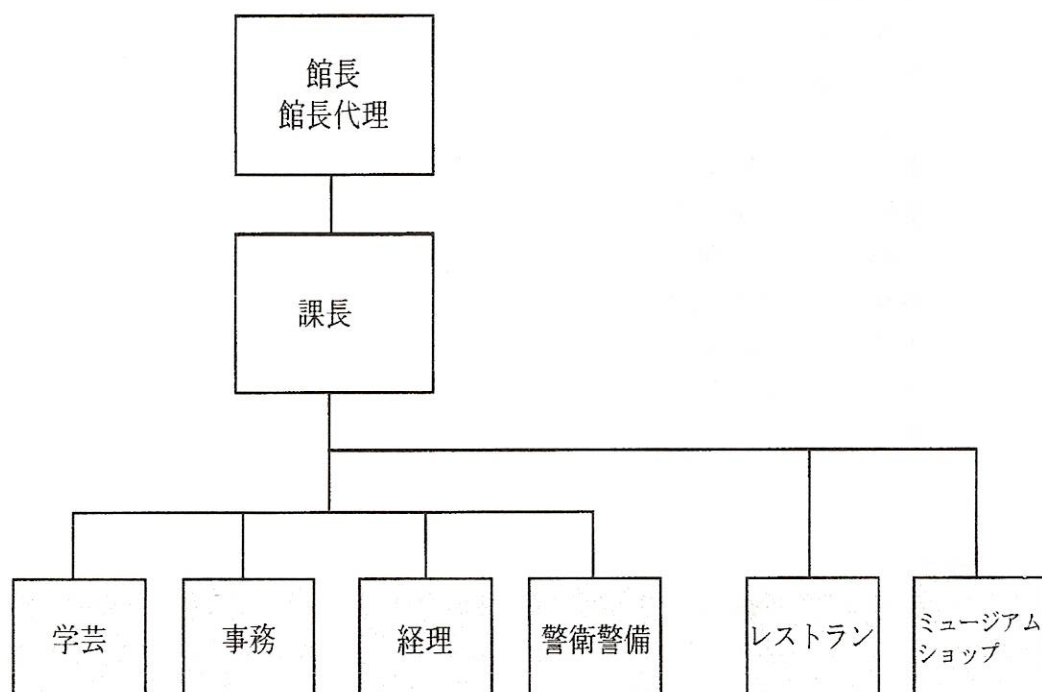
月	開館 日数	有料														入館者 総計	無料	1日当たり の入館者数
		個人(通常)						個人(割引)										
		個人(通常)			個人(割引)			団体			前売券		有料 総計					
		大人	高大	小中	計	大人	高大	小中	計	大人	高大	小中	計					
4月	20日	1,780	43	142	1,965	1,126	27	104	1,257	296	10	8	314	0	3536	6511	502	
5月	26日	2,232	52	268	2,552	1,654	46	182	1,882	241	0	1	242	0	4676	8803	518	
6月	25日	1,031	18	77	1,126	1,006	11	58	1,075	400	3	9	412	0	2613	10,710	533	
7月	23日	1,131	25	151	1,307	1,007	23	107	1,137	195	252	66	513	0	2,957	10,441	583	
8月	26日	2,032	113	569	2,714	1,458	84	364	1,906	328	5	62	395	0	5,015	17,573	869	
9月	26日	1,004	17	86	1,107	781	16	71	868	196	0	0	196	7	2,178	12,436	562	
10月	27日	1,326	32	60	1,418	1,196	22	82	1,300	546	3	18	567	13	3,298	1,126	164	
11月	26日	1,497	29	72	1,598	831	23	73	927	244	1	2	247	13	2,785	7,437	393	
12月	23日	377	8	15	400	349	2	19	370	47	0	0	47	60	877	1,338	96	
1月	24日	527	11	45	583	544	26	44	614	317	18	36	371	8	1,576	1,08	70	
2月	25日	906	12	38	956	660	19	25	704	479	23	29	531	10	2,201	2,05	96	
3月	24日	644	34	32	710	656	33	53	742	501	36	18	555	58	2,065	45	86	
合計		14,487	394	1,555	16,436	11,268	332	1,182	12,782	3,790	351	249	4,390	169	33,777	76,733	407	

平成11年度月別来館者数



V、組織・職員

1 組織表



2 職員名簿 (平成12年 3 月現在)

館長	岡崎 功
館長代理	平塚 林司
代理課長	高野 博司

学芸

学芸員	後藤 祐孝	(飛騨史)
学芸員	吉井 隆雄	(人類史・保存科学)
学芸員	菅原 富美	(記念室・教育普及)
学芸員	河西 珠実	(美術)
学芸員	清水 久美子	(人類史)
学芸員補	松本 庸子	(人類史)
学芸員補	亀田 裕子	(記念室)

事務

事務主任	松田貞嗣
特殊設備	橋本忠事
特殊設備	安川正
特殊設備	内田登
特殊設備	宇野史人
事務	高宮秀樹
事務	畑山賢
事務	吉垣内英紀
事務	竹内健二
事務	越後真紀子
事務	大石裕子
事務	川野陽恵
事務	青山晃子

経理

経理主任	齋藤真砂子
	小田知世
	武士田保世

展示解説員

中里真理子
飯島憲子
倉嶋千恵
阿佐見麻弥
柳瀬米希
宮崎一枝
甲斐千穂
山本香野
渡辺里奈
徳永友恵
見明佐知代
西尾麻美子
片山美幸
倉田トミ子

警衛警備

警衛主任 浅田基裕

滝澤顯

坂井昇

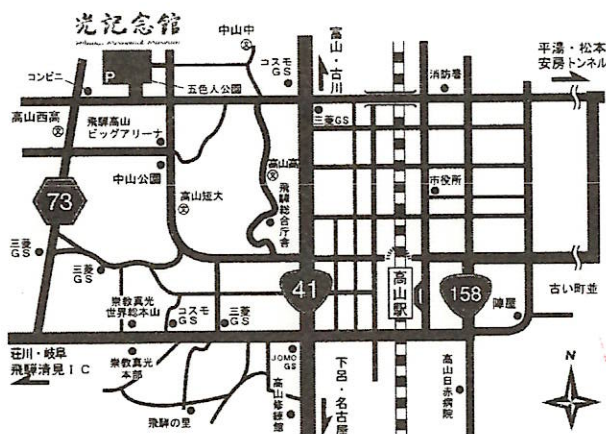
菊田昭広

楠康秀

メタ・サティア・インテラル

ご利用案内

- 開館時間 = 午前10時～午後5時（入館は午後4時まで）
 休館日 = 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）
 年末年始（約1ヶ月）
 展示替え期間
- 入館料 = 大人：900円（700円）
 高・大学生：700円（500円）
 小・中学生：300円（200円）
 ※（ ）内は割引券および20名以上の団体料金
- 所在地 = 岐阜県高山市中山町175 TEL：0577-34-6511（代）
- 交通手段 = JR：名古屋駅から高山本線（約2時間20分）
 高山駅下車、タクシーで約7分
 お車：東京方面から、長野自動車道松本I.Cより約2時間
 大阪方面から、東海北陸自動車道飛騨清見I.Cより約20分
 富山方面から、国道41号線で約1時間45分
 （無料大駐車場完備）
- レストラン = 館外：ピラコチャ 108席
 TEL：0577-32-8072
 館内：日玉の里（10名以上の予約制） 82席
 TEL：0577-32-8139



光記念館年報 創刊号（平成11年度）

- 発行日 平成12年3月31日
 発行者 光記念館
 館長 岡崎 功
 岐阜県高山市中山町175
 TEL:0577-34-6511
 FAX:0577-34-6065
- 印刷所 光記念館